

ホーム名：					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、第4木曜日に全体会議を行い話し合いの場を設けている。「ゆっくり・一緒に楽しい暮らし」開設以来の理念を大切に！！	開設以来の理念は大切にしつつ、管理者は新たに「尊厳をもったその人らしい生活」を事業所理念として確立し、職員と共有して実践につなげている。	「個人の尊重」は、憲法で定められた重要な権利である。入居者や職員、家族、来訪者の目につく所に掲示し、入居者と関わる際には理念を具体化して取り組んで頂きたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎日、近くのスーパーまで買い物へ出かけ、地域交流を図っている。公園の散歩もかかさず行っている。	自治会に加入し、地域の清掃に参加したり、事業所の夏祭りやクリスマス会には、回覧板で地域住民に参加を呼び掛けている。また、救命講習会や訪問看護師による健康相談など、地域貢献を通じても交流している。	開設以来8年が経過し、入居者の高齢化・重度化が進行し、地域交流も困難さが見受けられるが、地域の一員としての交流を継続願いたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等でボランティアを募り、認知症に対する理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に2度、行事の中に会議を設け、地域・家族・利用者・職員との交流の場を設けている。比較的リラックスした状態で意見や評価をもらう事もある。	運営推進会議への参加率向上を図る為、年2回は夏祭り・クリスマス会の行事の中に会議を設けている。昨年12月18日に開催された会議には、入居者18名全員と家族12名の参加を得て、事業所の一年の取り組みをスライドショーで紹介し、意見交換を行った。	参加者増の企画は奏功している。民生委員、老人会長など地域住民の代表者の参加も呼び掛けたい。課題について話し合った際に、参加者それぞれの立場からの要望や助言を記録に残して欲しい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	密には行かないが、運営推進会議や研修などで話し合う機会が多くなっている。	市町村各担当者とは、介護保険の認定更新手続き、グループホーム全体連絡会、ノロウイルスなど感染症予防研修、生活保護受給者の確認のための来訪などの際に協力関係を持っている。	事業所は運営推進会議の案内や報告、自己評価・外部評価の結果報告などを通じ、協力関係構築に努めて欲しい。また、市町村窓口担当者は事業者の話を聞いて頂きたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本行っていないが、玄関の施錠はなかなか解除する事は出来ない。入居時に説明を行い理解を頂いている。比較的、施錠の解除を望まれるご家族・関係者は少ない。	身体拘束は原則行っていない。センサーマットの使用も控えている。玄関は施錠しているが、徘徊の傾向のある入居者に対しては、ベランダの鍵を開けて見守り対応を行っている。居室の入り口は、暖簾で視界をある程度遮った上で開放している部屋もある。	家族は本人の安全を重視して、積極的に施錠の解除を望まれないと推察するが、日中は出来る限り見守り対応で鍵の無い自由な暮らしの実現を望む。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修で十分に伝えている。職員、1人1人も理解している。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>行政の行う研修にも参加し学ぶ機会を設けている。必要に応じた対応を心掛けている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時には十分な時間を取り御入居者様の今後について話し合いを行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見要望を受け入れ事業所としての対応に心掛けている。</p>	<p>家族の来訪時や、行事参加の折に要望を聞いている。評価に伴うアンケートでは「訪問医療のサポート体制」や「食事メニューの個人対応」について、感謝の言葉が寄せられている。</p>	<p>人事異動があった場合には、運営推進会議やホーム便り「瓦版」を活用して家族や入居者、関係者に紹介されると良いのではないかと。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>意見要望を受け入れ事業所としての対応に心掛けている。</p>	<p>月1回の職員会議では、行事に関する催しの検討や、入居者の支援の際のヒヤリハット事項、また徘徊など、問題行動についての対応など、意見を聞き実践に活かしている。</p>	<p>職員同士の人間関係も良好で、提案が運営に反映されている。今後は記録の充実に期待している。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者が直接スタッフ1人1人と話し合う機会を設けてくれる事がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>協力的である。研修等にかかる費用は会社負担してくれる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>東住吉区では連絡会や見学会などのネットワーク作りに協力的である。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>努力している。</p> <p>意思を伝えれない入居者については家族・関係者と連絡を取り意向を確認する。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>努力している。</p> <p>意思を伝えれない入居者については家族・関係者と連絡を取り意向を確認する。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>申し込み時にも他の施設紹介なども行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>なじみの関係が作れている。</p> <p>実際職員は自分の家族よりも長い時間を過ごす入居者の生活をよく考えている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来所時には普段の様子を伝えり、一緒に散歩に出かけたりする。来所頂けない家族へは瓦版等により様子等を報告している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居時にはなじみの家具などを持って来て頂けるよう支援している。ご近所の知人なども来所して頂ける事がある。</p>	<p>馴染みの美容室は徒歩12分と少し遠いが、外出の機会と捉えて支援している。家族と電話での会話や、友人・知人の訪問による交流も5割の人が継続できている。名前のみ自書しての年賀交換など、関係が途切れないように支援している。</p>	<p>本人の懐かしい筆跡を見ただけで、年賀を受けた人の喜びは一人である。ペンを握れる限り支援を継続して頂きたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>フロアでよく、利用者同士の会話を見かける。</p> <p>孤立されている様子はない。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>相談援助は行っている。</p> <p>また面会にも行く事がある。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話し合いは怠らないように心がけている。 日常生活から思いをくみ取れるように心がけている。	言語障害などで発語が困難な入居者に対しては、質問を二者択一にして、本人の意向に添えるよう努めている。夏祭りには本人の希望により、化粧をし浴衣を着て参加することもある。	事業所の独自シートにより、入居者の生活歴や希望などの情報を把握している。行きたい所や、会いたい人などの願い事が叶うよう努めて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時に家族・関係者から○○シート（独自シート）の記入にご協力頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	往診医師・看護師等にも密に連絡し状況把握に努めている。個人ケース記録の見返しも行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとのスタッフ配置により、本人を理解する事が、比較的早くなり、なじみの関係にてご家族様の要望にも対応出来ている。必要に応じ個別会議を行い対応に応じている。	本人・家族・現場スタッフの意見を聞き、身体状況に応じた本人本位の介護計画を作成している。本人が出来ることを見極め、自信が持てるような援助方針のもと、短期および長期目標を定め、その人らしい生活ができるよう支援している。	目標達成は容易ではなく継続して設定することになる。個別記録に本人の達成状況や発言内容を記載し、新しいモニタリングやプランニングにつなげて頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設独自のシートにてご本人の生活把握に努めている。水分・排泄パターンを知り、生活状況の把握も比較的スムーズに出来ている。職員間の申し送りも毎日行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の要望にもこたえるように努力し、ご近所の友人宅への訪問援助や美容室などへの外出支援なども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園やスーパーなどには毎日出掛け、時にはお寺や神社まで出かけている。時には図書館へ本を借りる、返す支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院の医師、自ら週に1度訪問して頂き、顔なじみのナースによる訪問看護も受けている。さまざまな研修にて職員も入居者も安心している。入居時に家族の理解を得ている。	東和病院が提携病院で、24時間の対応が可能である。また週に一度内科医師、歯科医師（岸川歯科）の訪問診療があり、看護師の訪問介護も毎週行われている。入居前のかかりつけ医が希望の場合は家族付き添いで継続することもできる。	医師の訪問診療や看護師の訪問看護、24時間対応の提携病院と事業所の関係により適切な医療をうけている。1～2ヶ月に1度は一般の人も対象にした看護師による健康相談もおこなわれていて、認知症の家族の相談に来られたこともある。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週2回の訪問看護があり、行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>適切に行っている。 又、入院されている間は、様子を病院関係者と情報交換するとともに、実際に面会し状況確認にも勤めている。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>指針は定めているが入居者の家族との話し合いの中施設での終末はまだ迎えていない。しかし、重度化した場合でも可能な限り施設での支援に努めている。</p>	<p>今まで事業所での看取りはなく、現在の体制での終末期の支援は問題があることを入居時に説明していて、今のところその希望もない。しかし将来希望があれば事業所の力量や体制を見極めながら検討していく。</p>	<p>本人にとってどうあるのが希望なのか、家族はどうなのか事業所が対応できる最大の支援方法をふまえ、その時々で出来る支援について管理者、スタッフ共に話し合われることを期待する。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命講習も施設で行って頂き近隣住民にも参加して頂いた。後、看護師による相談も行っている。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設近隣に職員2名の自宅があり また、消防訓練も近隣住民の方の参加もして頂けている。</p>	<p>年2回避難訓練を行いスプリンクラー、消火器、避難経路などについて消防署から確認を得ている。広域避難場所は平野中学校が指定されている。</p>	<p>年々重度化が進むことも考慮して、特に2階の入居者の避難については常に見直し、夜間の避難誘導や避難経路について等職員全員が把握した上で定期的な点検を重ねられたい。又災害時に備えて食料、飲料水、トイレ、毛布等の備品の準備もされたい</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議などでプライバシーの重要性についてはよく話をし損ねない言葉かけ等を心がけている。	認知症の重度化により排泄の失敗があった場合には特にさりげない対処に注意をしている。どんな時も年長者としての敬意を払い親しい中にも尊厳を無視した対応や言葉遣いになっていないか配慮し確認している。	コミュニケーションがなかなか取りにくい中ではあるが、出来るだけその人の意思や、希望を読み取り支援されることを今後も続けていただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日などその方の嗜好を聞き昼食等に取り入れている。日々自己決定が出来る言葉かけに気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のプログラムをある程度決めてはいるが、個々の希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の化粧品の購入などの支援も行っている。希望があれば職員が化粧する事もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事の支援として、盛り付けやお片付けを、お手伝いして頂いている。	㈱タイヘイから届く食材に独自の味付けをし、職員が同じ食事を一緒にとっている。ADLが下がった人には食べやすくして出しているが、手間はかかっても出来る限り食欲が出るような工夫をして食事を楽しんでもらっている。	ADLが下がってくるに従い出来る事が少なくなってきた入居者や気分のムラがある入居者それぞれに合わせて、出来ることを見つけてしてもらおうという努力を感じた。これからも優しさにあふれた介助を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	毎日、食材のみ配達され不足を毎日スーパーへ買い物に出かけ調達するようにし、看護職員や栄養士からのアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声かけや介助をしっかりと行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し個々に応じた排泄の支援を行っている。実際、リハビリパンツからショーツへの対応が出来ている利用者もいる。	排泄パターンを把握し個々に応じた排泄の支援を行っている。実際、2時間に1度トイレに誘導することでリハビリパンツからショーツへの対応が出来た方もいる。	外出時もオムツにするのではなく、失敗があることを想定して対応できるように準備して出かけるようにしている。手間を惜しまず自立を見守るという考えは素晴らしい。利用者の体力に合わせて出来るだけオムツの定時交換という状態にならないように支援される事を期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分摂取量を把握し専門職員からアドバイスにより予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の時間は決めているが希望に応じるよう勤めている。	時間帯は大体2時から4時と決まっているがどうしても朝風呂又は夜の入浴を希望する入居者がいれば話し合いの上希望に応じる。入浴を拒む人がいても、順番や担当職員を変えてみるとか日を変えるなど工夫している。	歩行が困難な入居者にはシャワーチェアを使用したり、すのこを利用したり、足浴を取り入れたり出来るだけさっぱりしてもらおうように工夫している。体調やそれぞれの介護度に合わせてこれからも優しい介助を続けられたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	広い共有空間を用しており間仕切りや各所に椅子等を設置している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに薬事情報を貼り専門員からのアドバイスも受けている。 服薬支援も行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、天候や体調に問題がない限り、散歩に出かけ気分転換の支援を行っている。 嗜好に合わせ色塗り・編み物読書などにも対応出来ている。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	急に買い物行きたいおっしやつた利用者等にも対応出来ている。 毎年、6月、11月には日帰りで外出している。 その事について家族様も喜んで頂いている。	近くに白鷺公園や大念仏寺があり、ちょっとした散歩には恵まれた環境であり、美容室や外食にも車椅子で出かけるようにしている。最近では和食の「かごの屋」まで15分から20分かけて出かけた。	大きな樹木に囲まれた気持ちのよい公園や寺院が近くであり、都会の中にも恵まれた環境なので、これからも出来るだけ外出支援をお願いしたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に応じた対応を家族と話し対応している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	行っている。 フロアの電話を利用されたり、個々に携帯電話を所持されている方もいらっしゃる。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員手作りの暖簾をつるし、季節に合わせ、季節折々の絵など作品も飾っている。 居心地の良い空間作りを心掛けている。	職員手作りの見事な手芸作品があちらこちらに飾られ居間、廊下を暖かい雰囲気になっている。又季節の趣を感じさせる折り紙の朝顔なども入居者の目を楽しませてくれる。それぞれが好きなように過ごしやすい清潔な居間になっている。	装飾品や暖簾等、どうしたら温かくくつろいだ居間にできるか真摯に取り組んでいるのを感じる。ともすれば幼稚になりかねない折り紙細工もしつとりした朝顔がつるを伸ばして、大人の居間にふさわしい、また季節を感じる飾りになっている。これからの季節季節でどんな雰囲気になるのか楽しみである。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っている。 1人になりたいときは自らお部屋へ入室される。 プライバシーをしっかりと守られている。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居契約時にお願いし出来るだけなじみの物を持って来て頂いている。 仏壇の持ち込みも可能である。	基本的に入居者や家族の希望の家具等持ち込める。その人の好みや状況により各部屋の雰囲気はいろいろで個性が出ている。どの部屋にも畳のコーナーがあり、非常に家庭的なくつろげる空間になっている。	部屋の様子はそれぞれの好みで個性豊かに設えてある。畳のコーナーに小さなテーブルを置くなどして、自分の家のようにくつろげるのではと感じた。重症度により一概にはいかないが、可能な限り馴染みのものに囲まれて暮らせる生活を今後も支援されるよう期待する。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に対応出来るようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいの ③職員の3分の1くらいの ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいの ③家族の3分の1くらいの ④ほとんどできていない